

自分らしく 安心して暮らす

共生の地域づくり

第3次地域福祉推進計画〔令和5年度～9年度〕概要版



自分らしく 安心して

基本方針 1

- 互いが尊重される地域づくり
- 参加しやすい・参加したくなる多様な場づくり
- SOSが出しやすい地域づくり

基本方針 2

- 多様な力と共感が交わるきっかけづくり
- 力の循環を促進する「拠点と人」づくりの推進
- つながりで築くケアの推進



暮らす 共生の地域づくり

ます。その状況の中、多様な分野の方々による策定委員会、各種アンケート・ヒアリングなどに基づき、定した第3次地域福祉計画と連携、協働した民間による活動計画で、地域福祉の開発的・先駆的な取り組みのための4つの基本方針を定めました。

基本方針3

SOSをまるごと受け止め、 支える体制づくり

- まるごと受け止めみんなで支えるチームづくり(包括的相談支援体制の推進)
- 権利擁護支援体制の促進

基本方針4

地域福祉を進める 基盤づくり

- 社会福祉協議会の機能強化
- 計画推進の仕組みづくり
- 住民主体の活動圏域の形成



地域部会 部会長
西田 孝夫さん

この度計画がまとめられましたが、少子高齢化・人口減少という今までに経験したことのない時代を迎え、計画推進の本番はこれからです。

計画の実現は、行政や社協をはじめ、さまざまな団体の取り組みと共に、暮らしの足元である地域の取り組みにあると私は考えます。地域社会は核家族化や価値観の多様化が進み「人間関係」「つながり」の在り方もさまざまです。そうした時代とともに私たち地域住民の意識も変えていかなくてはなりません。集落が1つの家族のように助け合う、そのようなコミュニティができればこの計画もしっかりと実を結ぶことでしょう。そのために地域の中で私も共に頑張っていきます。



相談支援部会 部会長
前川 嘉彦さん

私は高齢者福祉の分野で働いています。今回、推進計画策定で、障害者福祉、児童福祉、地域で自治会や福祉活動者の皆さん、教育現場や民間企業等、様々なフィールドで活動する“人”とつながりができました。この出会いは社会福祉協議会というのりしろがつないでくれたものです。

今回の計画を実行するという事は、委員会やワーキングでつながった輪をさらに大きく広げていくことです。計画を実践するメンバーの一人として、できることを続けていきます。



ケア部会 部会長
中田 初美さん

10回の策定委員会は、それぞれの実態を出し合い、活発に議論し、知恵を出し合い、対策を考える。という学びの多い部会・全体会でした。

また、社協の「推進計画」にかける本気度も感じました。

このような中で「誰もが地域社会から取り残されることのない“自分らしく暮らすことができる”地域共生社会」を目指す、どこにも負けない素敵な「推進計画」が出来上がりました。

この計画が「絵に描いた餅」にならないように、今まで以上に社協や地域と協力し頑張りたいと思います。

誰もが『認め合う』 安心な地域づくり



すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、一方向の関係ではなく、
支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる地域づくりを目指します。

進めていくこと

互いが尊重される 地域づくり

「自分らしく暮らす」の実現とともに、誰もが多様性を認め合い、地域の一員として大切にされる「共生社会」の実現に向けて「循環型福祉学習」や「当事者活動の促進」を進めます。

具体的には！

- 住民・当事者福祉学習の実施
- おとなのひきこもり状態にある方の家族のつながりづくり
- セルフヘルプグループ支援の充実

キーワード》 共生社会

すべての人が自分らしく安心して暮らし、ともに生きがいを創り高めあうことのできる社会

参加しやすい・ 参加したくなる 多様な場づくり

日常の中で困りごとについて、まわりが早期に気づくことができる環境や機会が確保されることで、安心して、自分らしい暮らしができるよう、「サロン・居場所など多様で身近な場づくりの推進」などを行います。

具体的には！

- 共生の居場所づくりの推進
- 多様な「つどい場」づくりの支援

キーワード》 居場所

自由に往来し日常的に顔をあわせるなかで、それぞれが社会的役割を見出したり確認できる場所。

SOSが出しやすい 地域づくり

生きづらさを抱えている方が身近な地域などで、自分が困っていることに「SOSを出すことができる」、そのSOSが「受け止められる」地域づくりを進めます。

具体的には！

- 孤立を防ぐ「つながり」「見守り」「支え合い」の活動
- 当事者向けの情報発信
- 社協ホームページの拡充

キーワード》 SOS

この計画では、困っている状態であることに気づいていない、どこに相談していいかわからないなどの状態に周りがあることに気づくことを含めています。



「安心」「自信」につなげる



同じ生きづらさを抱えた人同士のつながりや仲間づくりの活動があります。

「さんだ♡ささえあいねっと」(セルフヘルプグループ紹介・啓発冊子：毎年発行)はここから



集える場を大切に

誰もが気軽に会い、交流できる場や機会が地域にはたくさんあります。自分らしく居られる場所をつくっていきましょう。



つどい・サロン

多様な力がつながり 協働する仕組みづくり

既存の対象やつながり、方法に限らず、地域住民・団体、医療・保健・福祉関係者、教育、企業・事業者、行政などの多様な力が柔軟につながることで、地域福祉のさらなる活性化をすすめます。



進めていくこと

多様な力と共感が 交わるきっかけづくり

住民が抱える生きづらさ・困りごと、課題の解決・軽減に向けて分野、職種を問わず多様な機関や団体が集まり、情報交換や交流の機会を設けます。

具体的には！／

- 多分野活動者交流会（ボランティア・市民活動など）
- プラットフォームの充実

キーワード》 プラットフォーム

多様な分野の主体が共通の目的（課題解決）を達成するための、ゆるやかで出入り自由な連携・協働の場

力の循環を促進する 「拠点と人」づくりの 推進

様々な組織・団体がともに互いの強み・弱みを補完し合い、活動を継続できるよう、「人が集い交わる拠点の強化」や「地域活動・ボランティア活動の促進」に取り組みます。

具体的には！／

- 地縁型組織・テーマ型組織の連携支援
- 地域福祉支援室・ボランティア活動センターの機能充実とシニア・ユースひろばの連携強化

キーワード》 地縁型活動・テーマ型活動

【地縁型活動】地域コミュニティを中心に活動（区・自治会、老人クラブ、民生委員・児童委員等）
【テーマ型活動】福祉や健康などのテーマに応じた活動（ボランティアやNPO、当事者団体等）

つながりで築く 協働ケアの推進

支援を必要とする方が安心な暮らしを継続して送ることができるよう、分野別のサービスや専門職と地域活動者等による暮らしを支える協働ケアの仕組みづくりを推進します。

具体的には！／

- 子育てサポート体制の強化
- 民間福祉・団体ネットワークの促進支援・分野別ネットワークの促進支援
- 専門職と地域活動者、ボランティア活動者との連携

キーワード》 協働ケア

異なる専門性を持った人が集まり共有した目標に向けてともに支援すること。

ここから
スタート！



「つながり」のきっかけに

共感を力に変える社協のネットワークに参加しませんか！



多様な企業・法人・事業所が参画「福祉介護の魅力」を伝えたい！「介護福祉フェスタ」を開催

まずは「語る」ことから

アイデアを寄せ合って地域の可能性を広げましょう。



法人（事業所）
協働ミーティング

SOSをまるごと受け止め、 支える体制づくり



SOSの声をあげたい時、それは、年代問わず誰にでもあるはず。また、自分からは、「SOSを発さない・発せない」こともあります。そんなSOSをまるごと受け止め、支える体制づくりをめざします。

進めていくこと

まるごと受け止め みんなで支えるチームづくり (包括的相談支援体制の推進)

- (見逃さない)「気づく」
- (こぼさない)「受け止める」
- (はなさない)「解決をささえる」

を通して、感度の高いアンテナで気づき、断らない姿勢でまるごと受け止め、ネットワークで支えることを目指します。

具体的には！

- 民間福祉、団体／分野別ネットワークの促進支援
- (仮称)地域福祉推進研修会(専門職)の開催
- 子ども支援者ネットワークの推進

キーワード》ネットワーク

直訳すると「網状のつながり」です。地域福祉ネットワークづくりの主体は「当事者・住民」間、「当事者・住民と専門職」間、「専門職」間の3パターンがあり、範囲もさまざまです。

権利擁護支援体制の促進

「権利侵害や消費者被害からの救済」だけでなく「侵害・被害からの予防」や「一人ひとりの権利が大切にされる支援」をすすめます。

具体的には！

- 権利擁護サポーターの養成
- ヤングケアラー支援の実施
- 身寄りのない人の支援ネットワークのあり方・終活プログラムメニュー研究

キーワード》権利

安全に安心して暮らすこと、お金の使い方や住むところ等、自分のことを自分で決めることなど。憲法で保障されています。

ここから
スタート!



抱え込まないこと

SOSを受け止めた人が抱え込んでしまうことがあります。まず「つなぐ」を心がけましょう。



専門職と地域支援合い
活動グループの交流

不安が安心に変わる

同じ時間を共有することからはじめる無関心から関心への一歩



卓球を通じた交流

地域福祉を進める 基盤づくり



地域での様々な出来ごとを受け止め、多様な力を合わせながら、さまざまな課題の解決に向けて、地域の皆さんとともに取り組んでいけるように、組織経営と社協職員の人づくり、環境の整備に取り組みます。

進めていくこと

社会福祉協議会の 機能強化

地域で起きていることを共有し、ともに考え、協力しあいながら、よりよい形で地域福祉を進めていけるように、社協機能のパワーアップを図ります。

具体的には！

- 「社協職員」としての人材育成
- 広報・啓発活動の充実
- 地域福祉財源確保の推進

キーワード

地域福祉財源(社協会費・善意銀行・共同募金)

地域の活動を支えていくためになくてはならない財源です。

計画推進の 仕組みづくり

計画の進捗評価については社協の事務局だけでなく、理事会・評議員会をはじめ、地域の皆さんと検証し、見直しを行います。

具体的には！

- (仮称) 地域福祉協働推進ネットワークの設置
- 目標達成に向けた進捗管理

キーワード

地域福祉協働推進ネットワーク

地域の人を中心に、地域福祉の協働実践やその増進を図るプラットフォーム

住民主体の 活動圏域の形成

円滑に地域の力が結集される住民主体の活動圏域を検討・推進します。

具体的には！

- 住民と専門職との協働、話し合いの場づくり

キーワード

活動圏域

課題に応じた話し合いの場や、地域活動など、住民が参加している様々な基盤

ここから
スタート!



社協機能のパワーアップ

この計画を推進するため、職員は互いに協力し合い一人ひとりが行動力を高め、



職員対象「総合相談体制
研修」

地域の皆さんとともに考え、頼られる社協職員を目指します。

「お推し」の事業・活動をサポート!

社協には、様々な事業・活動があります。あなたが応援する事業・活動へ、資金面でサポートすることができます。



善意銀行 さつちゃん
のまごころお福分け
ネットワーク事業





第3次地域福祉推進計画

本編はこちらからご覧いただけます。



ホームページ

社協事業の紹介をはじめ、お知らせや地域のつどい場マップなど地域福祉に関する情報をお届けしています。



公式LINE

社協が開催する講座や研修、イベントなどのご案内を配信しています。

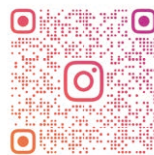


Facebook・Instagram

地域の活動や社協事業の様子を投稿し情報発信しています。



Facebookはこちら



SANDA_SHAKYO

Instagramはこちら

ぜひアクセスしてね!



第3次地域福祉推進計画(概要版)
発行:社会福祉法人 三田市社会福祉協議会
〒669-1514 三田市川除675
TEL:079-559-5940 FAX:079-559-5704

社会福祉協議会は、地域の皆さんとともに、
自分らしく安心して暮らす
共生の地域づくりを目指して活動している
営利を目的としない社会福祉法人(民間団体)です。

